

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合会議録	
日 時	令和5年8月28日（月）14時00分～15時30分
開催場所	ホテルメルパルク横浜 エトワール／シェリー
出席者 ※敬称略	石渡 卓 (神奈川県大学理事長) 今村 俊夫 (株式会社東急総合研究所代表取締役会長) 内田 裕子 (経済ジャーナリスト、イノベディア代表) 河野 真理子 (早稲田大学法学学術院教授) 北山 恒 (建築家、横浜国立大学名誉教授) 隈 研吾 (建築家、東京大学特別教授・名誉教授) ※ウェブ参加 幸田 雅治 (神奈川県大学法学部教授) ※ウェブ参加 寺島 実郎 (一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長) 平尾 光司 (専修大学社会科学研究所、昭和女子大学名誉理事) 涌井 史郎 (東京都市大学特別教授)
欠席者 ※敬称略	デービッド アトキンソン (株式会社小西美術工藝社代表取締役社長) 村木 美貴 (千葉大学大学院工学研究院教授)
開催形態	公開（傍聴者20人／記者17人）
次第	1 市長挨拶 2 学識者会合委員長の選任 3 (1) 山下ふ頭の概要 (2) 意見交換 (3) 地域関係団体の参加について (4) その他
決定事項	次第2 委員長は寺島委員に決定した。
議 事	別紙
資 料	当日配布資料 (1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 委員一覧 (2) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 座席表 (3) 山下ふ頭の概要 (4) 市民や事業者の皆様からいただいたご意見・ご提案のまとめ

## 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 議事

### 【事務局】

定刻になりましたので、これより横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合を開催します。私は、横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課長の荻原と申します。どうぞよろしくお願いたします。学識者会合の委員長が選任されるまでの間、進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

お手元に、資料として、次第、名簿、座席表、山下ふ頭の概要、参考資料の市民・事業者のご意見等のまとめ、グリーンエキスポ 2027 のパンフレットを配布しております。ご確認ください。

委員の皆様のご紹介については、名簿及び座席表をお手元に配布しておりますので、それに代えさせていただきます。なお、本日は隈委員、幸田委員はウェブでご参加する予定でございます。アトキンソン委員、村木委員はご欠席でございます。

それでは、学習者会合の開催にあたりまして、主催者を代表いたしまして、横浜市長の山中よりご挨拶申し上げます。よろしくお願いたします。

### 【山中市長】

皆様こんにちは。横浜市長の山中竹春です。

本日はお忙しいところ山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。皆様におかれましては、日頃から本市の発展にお力添えをいただき、また今回の委員もお引き受けいただきましたこと、この場を借りまして改めて御礼を申し上げます。

本日は、様々な分野でご活躍をされている学識者の皆様方にご意見を賜りたいと考えております。山下ふ頭の再開発は、横浜が活力ある都市であり続けるために大変重要なプロジェクトです。そして、このプロジェクトを進めていくにあたっては、市民の皆様のご理解が不可欠です。これが1番基本的なことであり、この山下ふ頭再開発のコンセプトのベースになるものであると考えております。

横浜市では、昨年から今年にかけて、市民の皆様からの、意見募集、意見交換会を重ねてまいりました。その中で、経済波及効果、都市ブランドの向上、将来にわたる街の持続可能性、そういった視点をはじめ、実に一万件を超えるご意見を頂戴いたしました。また、事業者の皆様からは、企業や大学等のイノベーション施設、あるいは大規模集客施設などを中心とした提案をはじめ 18 件のご提案をいただいたところであります。いただいたご意見、ご提案を踏まえまして、市民の皆様からご理解をいただける、そして事業性のある再開発の実現を目指していきたいと考えております。

委員の皆様方におかれましては、山下ふ頭の優れた立地、そして広大な開発空間を生かした、新しい時代の象徴となるまちづくりに向けて、それぞれのお立場から、ぜひご議論をお願いたしたく存じます。

山下ふ頭から、横浜経済をけん引し、都市ブランドを高めるまちづくりを進めていきたい

と考えております。そして、市民の皆様横浜に暮らす幸せ、そして世界から選ばれる町としての発展、そういったものにつなげられるよう、力を尽くしてまいります。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

### 【事務局】

ありがとうございました。恐れ入りますが市長は公務のため、ここで退席いたします。

会議に先立ちまして、現場をご視察されました委員の皆様につきましては、ありがとうございました。本日の会議は、学識者の方々に対し、山下ふ頭の現状等をご説明いたします。主に、埠頭の歴史、周辺地区の状況等を紹介し、意見交換等を行っていただきます。また、地域関係団体の参加についてご意見をいただきたいと考えております。

本日は、公開での開催となっており、会議の様子及び説明資料についてはインターネット中継により配信されます。また、会議室内に傍聴席と記者席を設けておりますので、ご承知おきください。その他、会議の様様を記録するため、事務局側で写真を撮らせていただきますので、あらかじめご了承ください。

続きまして、学識者会合の委員長の選任に移ります。条例により、委員長は委員の互選により選出することになっております。どなたかご意見ございますでしょうか。

特にご意見がないようですので、事務局の方からご提案させていただいてよろしいでしょうか。事務局としましては、実績や経験から寺島委員にお願いしてはどうかと考えますが、いかがでございましょうか。

### 【各委員】

異議なし

### 【事務局】

ありがとうございます。寺島委員に委員長就任をお願いいたします。それでは、寺島委員長、委員長席の方へお移りください。

ここで報道関係の方に、撮影にあたり、場所を広げて開放しますので撮影できるエリアにご移動をお願いいたします。

それでは、委員長、一言ご挨拶をお願いいたします。

### 【寺島委員長】

どうも、寺島でございます。この委員長の就任にあたって、私の方から3点ほど、私自身のこの委員会に対する思いと、方針といいますか、方向感をお話しさせていただきます。

1点目ですが、今日は有識者の会合となっておりますけど、我々の基本的な役割は付加価値をつけることです。どういう意味かという、この会合自体が意思決定機関ではありません。横浜及び山下ふ頭の将来を、責任を持って決めるのは、行政のラインであり、議会であり、市民そのものです。我々はその選択肢や議論の厚みをつけるために、付加価値

をつけたりするための一定の役割が果たせればというのが、私のこの委員会に対する思いです。

2点目ですが、これは事務局に対する私の要望と言いますか、市民の皆さんが山下ふ頭及び横浜の将来を考える上で、知っておかなければいけない基本的なファクト、ファクトシートと言いますか、事実関係をしっかりと確認することが議論の中身を厚くする上で重要だと思っています。

例えば、私自身そのデータと向き合っているからですが、世界での港湾物流の中における横浜の位置付け、一体、世界の大きな経済構造の変化の中で、横浜という日本を代表する港が今どういう位置付けになっているのか。横浜港というものの中身が、この歴史の中で大きく変化してきています。かつて、日本の主力産業だった生糸の輸出港として大きく存在感を持っていた横浜が、今我々の分析では明らかに輸入港として大きな役割を果たしていると言いますか、港湾としての横浜の意味というものをもっと深く我々自身も認識を深める必要があります。

さらに、後背地産業構造という言葉がありますが、私は北海道の、今度ラピダス株式会社が進出していった苫小牧東の工業団地の経営諮問委員会の委員長をやっているものから、強く思うのですが、この横浜という港が背負っている産業構造、つまり神奈川を睨み、一体どういう産業構造が、横浜という港及び羽田にも繋がることになるのですが、どういう産業構造にしていかなければいけないのか、問題意識も含めて視界に入れておく必要があります。

それから、当然のことながら人口動態と人流です。インバウンドの動き等も含めて、一体どういう形で横浜を活性化しようとしているのかということについて、やはりファクトシートがある、しっかりと踏み固める。それが2点目です。

それから3点目は、固定観念に囚われずに、多様な選択肢を視界に入れてみよう、戦略的な視点で。私自身、世界のベイエリアと言われている所を色々と見てきています。つい先月も、サンフランシスコベイエリアをシリコンバレーとともに見てきたところですが、例えば、非常に気になるのが、シンガポールモデルという言い方はありますが、シンガポールがどうしてあれだけの活力を持つ地域になったのかということなどは、しっかり理解する必要があります。視界に入れるべき世界の様々なプロジェクト、先行している事例等を、しっかり、やはり我々自身学びながら、それがこの有識者会議の皆さんが持っておられる情報のネットワークとか体験を吸収したい思いです。

この山下ふ頭が、IR、インテグレートドリゾートの1つの基点として検討されていた事情もよく知っています。IR＝（イコール）カジノになってしまったことが、私は非常に悲劇だったと思います。統合型リゾートというのは、高付加価値観光というものを目指す1つの切り口で、そのワンオブゼムに過ぎないカジノというところに、いきなり比重がいったしまったことが、たぶん議論が貧困になったことの大きな理由だろうと僕は思っています。そういうことで、多様な選択肢の中で、思いっきり柔らかく、21世紀を睨んで、横浜の未来のために、我々の知見の中で発言できること、方向付けられることについ

て、テーブルの上で議論してみようよということが、多分この会の非常に重要な意味だろうと僕は思っています。

そんなことで、私自身としてはそう思っていますが、様々なご意見があって結構ですので、吸収しながら少しでも前に進めるための役割を果たせればということで、私の役割を果たしていきたいと思います。以上です。

### 【事務局】

ありがとうございました。それでは、撮影を終了させていただきます。記者の方は報道エリアから後方の記者席に移動してください。

これより先の進行は委員長にお願いいたします。では、寺島委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

### 【寺島委員長】

それでは、まず何よりも第一の議事として、山下ふ頭の概要について理解を深めましょうということで、事務局の方から準備していただいている山下ふ頭についての概要の説明をお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

### 【事務局】

山下ふ頭再開発調整担当部長の竹内と申します。着座にて失礼いたします。よろしくお願ひいたします。

では、山下ふ頭の概要について、スライドの1ページをご覧ください。本日は、目次の6項目についてご説明させていただきます。

2ページをご覧ください。まず、横浜港の歴史です。左図は1865年頃です。横浜港は1859年に開港しましたが、この頃はまだ船が波止場に着岸できなかつたため、沖に停泊し、はしけによる荷役が行われていました。右図は1920年頃です。濃い茶色の部分が埋め立てられた場所になります。この頃には船が棧橋や岸壁に直接つけて荷役ができるようになりました。現在の大さん橋はイギリス人技師のパーマーによって作られ、現在の津波、高潮の防護水準にも対応しております。鉄道も整備され、工業地帯としての原型が作られていきました。

3ページをご覧ください。左図は1945年ごろです。瑞穂ふ頭などが埋め立てられています。第2次世界大戦後、1953年に米軍により、瑞穂ふ頭は接収されています。その代替として1953年に山下ふ頭の埋め立てが開始され、右図のとおり、1963年に山下ふ頭の埋め立てが完了しました。

4ページをご覧ください。山下ふ頭の歴史です。左図、円グラフで見ていただけるように、1964年頃は横浜港を支える主力ふ頭として重要な役割を果たしてきました。その後、コンテナ船による物流が主流になりましたが、山下ふ頭はコンテナ船には対応していなかつたため、本牧、大黒ふ頭等のコンテナ埠頭が建設されていき、右図棒グラフ・折れ線グラフにも示すとおり、次第に山下ふ頭の取扱貨物量、着岸隻数は減少していきました。そ

のような中、1997年の港湾計画改定により、機能転換していくエリアとして決定されました。

5ページをご覧ください。こちらは当時の写真です。

6ページをご覧ください。次に、山下ふ頭の再開発検討の経緯を紹介します。2014年に港湾計画において、新たなにぎわい拠点として都市的な土地利用に転換することとしました。2014年から15年にかけて、港湾計画改定及び横浜市都心臨海部再生マスタープランを策定し、都心臨海部の一体的なまちづくりを推進しています。2019年にはIR誘致を表明しましたが、2021年に撤回しました。2021年から22年にかけて、新たな事業計画を策定するべく、市民の皆様からの意見募集、意見交換会や事業者の皆様からの提案をいただきました。結果を取りまとめた概要につきましては、お手元に配布させていただきました。こちらにつきましては、改めて次回ご説明させていただきます。

7ページをご覧ください。山下ふ頭の現状についてです。山下ふ頭は約47ヘクタールという広大な開発空間で、街の中にそのエリアを移動させて当てはめると、中華街から山下公園周辺までが入る広さとなっています。三方を海で囲まれた立地が特徴です。元町・中華街駅や首都高速道路の出入口からも近いなど、優れた立地と広大な開発空間を生かしたまちづくりが求められています。

8ページをご覧ください。再開発に向けて倉庫などが移転したエリアは、動く実物大ガンダムを展示する施設や交通広場とバス待合所を開設するなど、暫定的な利用がされています。

9ページをご覧ください。ここからは、周辺地区における様々な施設についてご説明いたします。まずは、スタジアム・アリーナ施設です。横浜スタジアムに加えて、この9月に約2万人を収容できるKアリーナ横浜が開業。来年4月には新たに約5,000人を収容できる横浜BUNTAIが関内駅周辺地区に開業する予定です。

10ページをご覧ください。次に、大学です。2021年4月に神奈川大学みなとみらいキャンパスが、本年4月に関東学院大学の新たなキャンパスが関内に誕生しました。

11ページをご覧ください。次に、みなとみらい21地区に多く集積する研究開発機能を設置している企業です。

12ページをご覧ください。企業ミュージアムです。

13ページをご覧ください。国際展示場です。2020年にパシフィコ横浜ノースが開業しました。

14ページをご覧ください。テーマパーク等です。

15ページをご覧ください。公園緑地です。海沿いや関内に緑の軸線が形成されています。

16ページをご覧ください。商業施設です。

17ページをご覧ください。文化芸術施設です。

18ページをご覧ください。次に、ホテルです。都心臨海部にはさまざまな施設が集積されています。

19 ページをご覧ください、続いて、既往計画についてです。ここでは、山下ふ頭周辺地区も含めた都心臨海部の将来計画である横浜市都心臨海部再生マスタープランについて説明します。2015年に策定された横浜市都心臨海部再生マスタープランでは、「みなと交流軸」の形成や「地区の結節点」における連携強化により、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりを推進することとされています。都心臨海部の将来像の達成に向けて、山下ふ頭は「地区の結節点」のひとつとしての役割が期待されています。

20 ページをご覧ください。最後に、山下ふ頭や横浜市の現状と特徴、取り巻く環境をご説明いたします。まず、現状と特徴としまして、立地特性ですが、三方海に囲まれた優れた立地特性や大規模な開発用地を有しておりますが、山下ふ頭へのアクセスが1か所のため、課題として認識しています。次に歴史・文化です。豊かな水域と港の景観、開港時からの国際性や歴史・文化が集積していることなどが魅力の一つです。次に産業・人材です。オープンイノベーションの進展や学術研究開発機関、人材の集積が進んでいることや、昼夜間人口比率が低いなどといった特徴が挙げられます。次に観光ですが、宿泊客に比べ、日帰り客の割合が高いという特徴があります。次に、取り巻く環境としましては、社会・経済ですが、アジアを中心とした人口・経済状況の変化から、インバウンド需要の増加が見込まれます。しかし、人口動態の変化や、それに伴う税収減少、担い手不足などの課題が挙げられます。

そのような中、都市間競争の対応も求められています。お手元にパンフレットを配布していますが、一都三県で初めての万博、グリーンエキスポ2027の開催や上瀬谷などの大規模開発の動きも視野に入れながら、開発の検討を進める必要があります。また、交通として、広域アクセスの改善環境、技術として、GX、DXの加速といった社会環境の変化も踏まえるとともに、気候変動に伴う環境問題や自然災害についても対応していく必要があります。以上で資料の説明を終わります。ありがとうございます。

### 【寺島委員長】

どうもありがとうございました。山下ふ頭についてのコンパクトな説明をしていただいたところですが、質問のある方、何かこの点、もう少し聞きたいということがあれば、挙手いただいでご発言いただけますか。いかがでしょうか。

山下ふ頭についての説明、大概のものはこの周りに1つの目玉があるということで、結節点という言葉が1つのキーワードだと思って、受け止めていました。大きくいって、外から引きつける、要するにインバウンドを含むツーリズムに対する問題意識と、ファンダメンタルズというか、この地域を市民や住民により、意味のある形でもって活用するという問題意識が、両輪で必要だと思い聞いていましたが、質問ある方、いかがでしょうか。

なければ、このご説明をベースにして、意見交換という中で、話を深めていただきたいと思います。私はよく、審議会や有識者会議に色々出てきて、うつろな会議に終わらせないためには、総合資源エネルギー調査会や文科省の中央教育審議会にずっと出てきていますが、「1分半で話してください」というような話で、委員の話が終わるとというのが、大変もったいないと思います。私は次回から、委員の方に、少なくとも10分くらいご自身の山

下ふ頭を中心としたこのプロジェクトに関するご意見を、お話を伺って、じっくり聞ききかけにしたいというように思っています。次回からは、各委員に、責任先頭制のようなものですね、当番として、10分ずつぐらいのプレゼンテーションを準備していただいて、事務局の方から順次、順番を決めていただいて、話を聞く方向でいきたいと思えます。まとまった話は、そこで話としてお聞きするとして、今日の段階で皆さんに一言ずつでも、ご意見というかお話を伺いたいと思えます。涌井さんからお願いしますか。何か今日の段階で俺はこう思うよというような、冒頭の話で結構ですので。

### 【涌井委員】

分かりました。ありがとうございます。

今このところの説明を伺っている中で、様々な疑問が湧いてくる訳です。多分先進的な港湾区域、日本の歴史の中で先進的な港湾区域であればあるほど、実は同じ問題を抱えている可能性がある。ましてや京浜臨海部の港湾、全体にわたって、多分同じ問題を抱えていると思っています。いわば、日本の経済構造の転換や、あるいは国際的物流の転換という観点からいっても、横浜だけがこういう状況になっている訳ではなく、東京湾沿岸の、特に京浜地域の港湾が同じような状況になっている。そういう中で、それぞれの地域がそれぞれの新たな土地利用転換を図ろうとしている。したがって、単に横浜の山下ふ頭だけという観点ではなくて、今この京浜地区なり、あるいは東京湾沿岸の港湾にどのような見直しの機運が高まっているのかというところの情報をきちっと整理しておかないと、結局は、競合する、あるいは特性を持たないということになりはしないか。この点が一番気がかりな点です。

それからもうひとつ敢えて言うならば、これほど、市街地とこの港湾区域が近接している、こういう立地も実は他には見られない訳です。例えば川崎とその川崎の臨港地域、あるいはそういう意味で、ずっと眺めていっても、ようするに都市の中心市街地と港湾が近接している所がない。こういうような流れの中で、例えば先ほど委員長がおっしゃったように、世界の最先端のイノベーション、港湾イノベーションの地域で、どういう事例があるのかというあたりの資料も、ぜひご提供いただけないかと。つまり、もう少し山下ふ頭というところにだけ焦点を絞るのではなくて、全体を俯瞰してる中で、戦略的な位置付けというものに対する理解を深めていく必要があるのではないかという気がします。

たまさか平尾先生と私は今ご一緒しているんですが、寺島先生にも絡んでいただいて、川崎の臨港部についての議論も進んでいるところがございます。そういった観点からも、他との、ようするに整合性なり、あるいは競争力をつけるという意味からも、今の視点をぜひ利活用していただきたいというのが、私の意見でもあり、お願いでもあります。

### 【寺島委員長】

平尾さん。

### 【平尾委員】



ありがとうございます。平尾でございます。

今の涌井委員のご発言にも関わってきますけれども、やはり山下ふ頭を考える場合に、東京湾全体の都市機能が、どういうふうに分担されていくのか、その中で横浜山下ふ頭が、どういう位置づけになっているのかという少し巨視的な視点も必要ではなからうかと思っております。

それからもう1つは、山下ふ頭を取り巻く横浜市のリソースですね、今事務局の方からご説明いただきましたように、大変豊かなリソースがあって、最近発表された日本の都市の特性のランキングで横浜市は2位になっていますが、2位というのはやはり文化的な拠点、交流的な拠点というものが非常に評価されているということだと思わんですけれども、これを更に高めていくためにはどうしたらいいのかということです。具体的には明日、関東大震災の100周年ですが、そういう100周年の中で、首都圏における防災機能で横浜市あるいは山下ふ頭がどういう役割をするのかという観点が非常に大事じゃないかというふうに思っております、例えば港湾機能もそうですけれども新しいドローンの基地とか、そういったことが災害・防災対策として必要になってくるだろうし、防災拠点としての機能をどういうふうに持っていくのかということが、検討する必要があると思っております。

それから3番目はイノベーション拠点という形で、みなとみらい地区にかなり企業とか大学のイノベーション拠点の立地が進んでおりますけれども、私が見ると、バラバラに、点的な存在になっていて、それがネットワーク化されていないのではないかと、クラスター化されていないのではないかという気がしましてですね、クラスター化していく仕掛け作りをどうしたらいいのか、せっかくこの山下ふ頭の47ヘクタールという土地を1つのプラットフォームにできないかという、そういう思いがございます。

それから、もう1つは今日もこの横浜駅からこっちに来るときに感じたことですが、この地域へのアクセスが、みなとみらい線と、後はバスということですがけれども、もっと、モビリティを高めるような交通システムを導入できないだろうか、しかもそれが、山下ふ頭と中華街、それからこの地域の隣接するみなとみらいも含めて、そういう交流人口の機能もインフラとして、もう少しそのモビリティというのをどう高めるか「アクセス」「モビリティ」というのがキーワードになるのではという気がしております。

その他色々ありますけれども、とりあえず、第1ラウンドとしてはこんなところでお話させていただきました。ありがとうございました。

### 【寺島委員長】

北山さん。

### 【北山委員】

敷地の見学会に、この前に行って見てきたんですけれども、マリントワーにすごい久しぶりに登ってみると横浜のとても美しい港が見えるんですが、水面に船がほとんどない、水面があるだけで。昔シドニー行ったとき、シドニー湾ってウインドサーフィンやヨットで賑わっているんですよね。ウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセ

スしていない状態だなど、上から見て思います。これは 20 年前くらいに横浜のベイエリアを検討したときもそれを感じたがそれが続いている。

それと、港湾施設としては山下ふ頭の港湾施設というのは、実はもう港湾施設にはなくなって、物流のセンターになっているだけだということで、港湾という概念も少し変わってきている。それと、見ているとフランス山のあたりは非常に豊かな緑があるにも関わらず、山下ふ頭はある意味ではタブラ・ラサというか、誰も使わない更地になっている状態という無残な状態になっている気がしました。

それともう一つ見ていて、みなとみらいの辺りは昔、私が大学院のときにみなとみらい計画というのを 50 年くらい前にやったんですけども、そのときに見ていたのとはぜんぜん違ってタワーマンションがいっぱい建ってグレイッシュな 20 世紀後半型の都市風景になっていて、とても残念なみなとみらいに、期待していたものと違うみなとみらいができてきている気がします。横浜というのは都市デザイン室というところがあって、地区ごとにキャラクターが明確な都市を作っていくというのをかなりやってきました。それが横浜の街の面白さであり、街歩きの楽しみであったはずなんですけれども、次第に、割に同じような資本のスプロールが進んで、どこでも同じように短い期間で最大利益を上げるような事業開発があちこちで行われている。

今回も再開発検討委員会という、再開発を検討するのかなということですが、再開発という言葉自体がかなり 20 世紀的な言葉だと思います。おそらく我々は次の世代のために都市を考えているはずなんです。ところが、短期間で最大利益を上げるようなシステムが稼働しているために都市がどんどん食いつぶされているような状態が目の前にある。だから、もしここで検討委員会でやるならば、50 年先または次の世代、または 100 年後の都市がどうなっているのかというあたりから話をしていくこと。

それともう一つは、20 世紀型の都市というのは経済開発のために資本活動として都市を作ってきましたが、それではない時代がもう始まっている。これは寺島さんがおっしゃったように人口動態としては大きい変動が始まっていますので、拡張拡大をしていくような、そういう世界ではなくて、どういうふうに着陸させるのか。定常型社会といいます。定常型の豊かな社会をどうやってデザインするのか。

それと、経済の短期的な利益のために、都市を作っていくと、効率のいい都市を作り始めると、機能分化していくんですね。多様性がどんどん無くなっていくと。そうではない、ある意味では現状では効率が悪いけれども、未来のある長期的利益のある都市をどうデザインできるのかというのを考えていくのかなと思います。そういう意味で平尾さんがおっしゃった交通インフラというのは水上交通なんかどうなんだろうと。僕もこの前ベネチアに行ってきたが、ベネチアというのは車がなくて船だけなんですけども、船に乗るとすごい時間がかかるので、本当は街の中歩いたほうが早いんですが、街の中は迷路のようになっているので、よく知っていないと街の中を歩けない。だけど、だから地域的な人がそこに集まっている。そこに文化がある。不便だからこそ文化が高くなるような、そんなまちづくりもある。そういうことを考えながら、この委員会に参加できればと思っています。

### 【寺島委員長】

ありがとうございます。今日ウェブで参加していただいている、隈さんと幸田さんが最後までおられるのかどうかというのをちょっと確認できていないので、先にお二人にご発言いただくということで進めたいと思います。じゃあ、隈さん、ご発言いただけますか。

### 【隈委員】

中国の高速鉄道の中なので、音が途切れるかもしれませんが、まず、個人的な思い出から話しますと、私は横浜で生まれて育って、山下ふ頭はブラックボックスというか、何にもない良い場所なのに、行くことのできない不思議な場所でした。この山下ふ頭がなかった横浜もあったと思うのですが、あの場所は不思議な場所だと子供ながらに感じていたわけですが、今、寺島さんはじめ、みなさんが言う、繋がるということが今回重要だというのは実感として思っています。

山下ふ頭のせいで、本牧の方とみなとみらいが切断されてしまっているわけです。山下ふ頭の計画というのは、山下ふ頭だけをどうするかという話ではなくて、横浜をどう繋げ直すかという全体に係る話で、そのための会議だろうなと思っていました。そういうことを色々な意味で恵まれている、面白い場所であるにもかかわらず、それを生かしきっていない、繋ぎきれていないという感じがいたします。

世界中のウォーターフロントが産業社会、工業社会的な用途から、その先の社会のための用途へと変わってきつつあるなかで、山下ふ頭が取り残されたということは色々な事情があって、取り残されていたという利点をどう生かすかというのが重要だと思っています。取り残されたということは、逆に次の100年を見据えたような計画をすることもできるわけで、そういう意味で、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのは全然ダメで、逆に取り残されたことでトップランナーになれる可能性を持っているなと思っています。

色々なアイデアがあって、色々な議論ができると思うのですが、例えば、ニューヨークのセントラルパークは19世紀半ばにあのような形で大きな緑として計画されたことによって、その後の、1世紀半、2世紀くらい経つわけですが、200年間にわたってニューヨークという場所にそのエネルギーを送り続けたみたいなことが、もしかしたら山下ふ頭でできるかもしれないということも夢見て、そういうような夢のあることが横浜でできたらいい。要するに世界のウォーターフロントに迫っていくという意識ではなくて、先に行く夢のような話ができればいいなと思っています。

僕自身、世界のウォーターフロントでいくつかの場所、釜山、スコットランド、シンガポールの計画に携わっているのですが、やっぱり、先進のウォーターフロントは既に拘束がたくさんあって、その拘束の縛りのなかでやらなくてはならず、凄くある意味大変なのですが、この山下ふ頭はある意味で自由なので、その自由を生かしてほしい。そこが今回の計画で非常にわくわくするような点だと感じています。以上です。

### 【寺島委員長】

ありがとうございました。それじゃあ幸田さん、お願いします。

## 【幸田委員】

どうも、ありがとうございます。

私自身、今先ほどお話がございましたように、結節点ということと、それからやはり 47ヘクタールという広大な土地が残されている、大変市民にとっても大変貴重な場所だということで、横浜市民の思いも大変強い、自分たちにとって宝のような場所だ、というような声もよく聞くところであります。

そういう意味では、どういう機能を重視していくのか、どういう計画にしていくのか、両方繋がっていくかと思うんですけど、それを是非、市民とともにですね、煮詰めていく。そういうことが是非この委員会、その後の事業計画の策定に向けて取り組むことが、非常に重要ではないかなと。

地域全体、地域というのはかなり、先ほどからお話がありますように、ある意味広いエリアも含めて考える必要があるかと思えますけれども、それとやはり横浜市民の為になる計画ということにしていく必要があるんじゃないかなと思えます。そういう意味では、周辺に公園、山下公園もあるんですけども、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのかということも、ぜひ議論していただきたいなと思っているところです。

それから、2点目としては、住民自治、市民自治という観点から、市の資料では、答申後に市が事業計画案を策定し、改めて市民意見募集、意見交換を実施したうえで事業計画を策定するとなっている訳で、これは適切な手順であると思っておりますけれども、答申後のそういった手順を含めて、委員会でどのような手順を進めていったらいいのか、ということもぜひ答申に盛り込んで欲しいと思えます。計画内容というハード面だけではなくて、事業者の募集の方法などのソフト面を含めても検討してはどうかと思っております。

やはりですね、こういった事業計画、アメリカ等では、都市計画というのは必ず複数案示すというふうな、日本では一案しか示さなくて、それを行政が説得するみたいなことが各地で行われている訳ですけども、実際に市民が適切に判断するためには、選択肢は1つでは、人間というのは1つではそれが適切かどうか判断することができない、と言われている訳ですね。2つ以上のまともな選択肢があつてこそ、きちんと市民は考えることができる。十分差違のある選択肢を複数案以上出して、それを市民が比較した上で、市民が意見を出して、それを集約して、計画につながっていく。そういうふうには是非していただきたいと思っております。

やはり、情報公開、それから応答性、透析性というかですね、市民の疑問にもきちんと応答することが果たされる必要があると思えます。IRの誘致では、非常にこの面では不透明であったし、市民の疑問への応答性は欠如していたと考えているところです。

最後に、経済効果・財政効果について、やはり地域への経済効果については、雇用面はもちろんですけども、雇用以外の面でも、できるだけ経済効果が域外には流出しないで、地場の産業にも利益が及ぶようにすることも重要ではないかと思えます。また、こういった面の分析についても、しっかりとエビデンスに基づいて、分析をされることを、ぜひ期待したいと思えます。

後は、財政削減については、財政削減を優先して、この本件についていうと、市民の利便性や市民の為の開発という点がおろそかになることはあってはならないと思っています。市が多額の予算をかけて整備することはもちろん避けるべきですが、だからといって、財政削減が目的の最初に来るとするのは本末転倒だと思っています。

港湾については、私自身もヨーロッパのハンブルグ、ハンブルグはヨーロッパでも若者の住みたい街ナンバーワンというふうに何回もなっているところですけど、あるいはマルセイユなども視察をさせていただいたことがあります。そういう意味で、将来に向けて、本当にこの開発が、先を見越した、そういう日本の中でも非常に素晴らしい開発計画になるように、いろんな、様々な機能については先ほどから有識者の方々からご発言がありましたけれども、そういった機能を十分、しっかりと踏まえて、専門の方が多く揃っておられますので、議論ができればなと思っていますところでもあります。簡単ですが以上とさせていただきます。

### 【寺島委員長】

はい、ありがとうございました。では、河野委員。

### 【河野委員】

まず、今日視察をさせていただきまして、あれだけの広い場所がすぐ港の傍にあるということ、これを本当に生かせるような計画を考えなければいけないということ、しみじみ感じた次第でございます。

特に先ほど伺いましたら、東日本大震災の時にもあまり液状化ということもなかったと、それだけの強固な地盤があって、それだけの広さがあるということ、これは何よりも大きな資産であって、それをいかに効率的に意味のある利用方法をするか、ということ考えなければいけないというふうに、まずは今日見せていただいて、しみじみ感じました。

その上で、今色々な方々のご意見を伺っておりまして、そもそもこの場所をどういう目的で利用するのかというときに、港湾の利用の仕方というときに、港湾本来の使い方である、例えば横浜港あるいは東京港の東京湾全体の港の国際競争力を、どういうふうに付けるかということを考える一環として捉えるということも必要でしょうし、でも例えばIRとか観光ということからいけば、いわゆる賑わい空間としての港の利用という利用方法もありうるのかな、と思いました。

ただ、今年に入りまして、例えば戦略コンテナ港湾の利用の会議に出ておりましたけれども、少なくとも日本にこれから先、将来どれだけ基幹航路の船舶を入れることができるかということを見ると、やはりこれだけのポテンシャルがある土地をですね、横浜港あるいは東京湾全体として見たときの港湾の魅力、それから国際競争力を付けるための場所として使うという発想はあっても良いのではないかというふうに感じる次第です。

それからもう一つは、同じ時期に検討会ございましたけれども、港湾のCNP（カーボンニュートラルポート）ですね。CNPを考えると、CNPの実現のためにも、実はこれは色々な論点がありますけれども、場所が必要な計画がほとんどですので、そうすると横浜港がどれだけCNPとしての魅力を世界に発信できるか、という場所としても使う可能性があ

るのではないかと、というふう感じた次第です。

それからもう一つ、これは私のかかなり個人的な感想でございますけれども。実は私、横浜港でベイブリッジから横浜港に船で帰ってくる時の景色がとても好きなんです。特にみなとみらいの近未来的な景色と、それから遠くに見える富士山の景色がとても美しいと思っ  
ていまして、そうすると大さん橋に船を、特に観光向けのクルーズ船とかをつけるとき、それから横浜港の湾の中を周遊する船舶から見たときでもそうかもしれませんけど、みなとみ  
らいの景色が少なくとも横浜港、大さん橋に入ってくる時ですと、右側にみなとみらいの  
景色が見えて、左側に今この山下ふ頭がある訳で、ここの景色のバランスがいかにとれるか  
とか、それからみなとみらいとの、どういうデザインでその美しさを更に磨くかということ  
も考えても良いのだろうと考えた次第です。

ですので、少なくとも今日の時点で私が申し上げられるとすれば、横浜港あるいは東京湾  
全体の港の国際競争力を付けるための魅力を持たせるために土地を使うこと、それからグリー  
ンイノベーションとか、それからCNPの強化のために場所を使うこと、そして横浜港全  
体として、いかに美しい景色を使えるようなデザインにするか、この3つを考えていただき  
たいと思いますし、そういう意味では、やはり港本来の機能としての国際競争力を付けるこ  
とと、それから市民の方々がいかにアクセスができる、楽しい空間にするか、この2つの側  
面も、ぜひ検討していただければと思います。以上です。

#### 【寺島委員長】

はい、ありがとうございました。内田さん。

#### 【内田委員】

内田です。よろしくお願ひいたします。

私は、3年前に「横浜イノベーション」という単行本を書いて、その時に、横浜をあらゆる  
視点から取材をさせていただいたものです。そのようなところからのコメントをさせてい  
ただきたいと思っています。

今、河野先生が言ったように、私、今日出張先、羽田空港から高速のバスに乗ってきたん  
ですが、ベイブリッジから眺める横浜の姿、みなとみらいの景色、都心臨海部ですね。本当  
に素晴らしいな、としみじみ感じてきたばかりです。特に山下ふ頭を意識して見てきました  
が、こんなにも目立つ場所にあるんだな、というのは改めて実感しまして、ここは本当に羽  
田空港から入ってくる人たちにとってみたら、入口そのものだと思ひまして、かなり景観で  
あるとか、そういうものも作り方によっては大変素晴らしいものになるなと思ひましたし、  
ならなければいけないと思ひたばかりです。

そういったことも含めて、山下ふ頭は横浜市の未来を考えたときに、とても重要な場所に  
なる。市民の方が思っている以上に、山下ふ頭の持っている可能性というのは、とても大き  
いものであると私は感じておひまして。ですので、先ほど寺島先生が言ったように過去の議  
論で、山下ふ頭がカジノという議論になってしまったのは悲劇だったというお言葉を使われ  
ましたけれども、まさに私は同意見でして、議論が貧困になってしまったというところ、I

R = (イコール) カジノではなく、色んな可能性があった訳で、そうした誤解やインフォメーション不足であったとか、そういったことが何となく市民の意見になってしまったということがですね、本当にそれが市民の意見だったかということは分かりませんが、残念だったというのが率直な私の感想です。

また、ファクトが大事であるという寺島先生の意見も重要な観点であると思ひまして、どうしても山下ふ頭の議論になると、いろいろな方がいろいろな意見を持ち、どうしても各それぞれがポジショントークになりがちだな、というのは客観的に引いた目線で私は感じておりました。

なので、やはりその中で、ファクト、大義、サステナビリティ、今は何を語るにも持続可能であるかどうかということが重要になっていきますので、そうした観点から議論を積み上げていくというのも非常に大事になってくるであろうと思ひました。

例えば、横浜市の産業構造をどうするのか、ということですね。どういう街にしていくのか、どういう市にしていくのか、ビジョンがすごく大事で、例えば、横浜市のGDPや、この先の横浜市の財政は厳しくなっていくという予想というのはあるわけです。そういった予想の中で、この山下ふ頭という重要な都心臨海部のランドマークになる、ここが横浜経済をいかに生み出して、動かし、そして市民の生活を維持していくために、どのような場所にしていくのか、ということ。

後は、短的な経済活動効果だけでなく、30年後50年後という長い視野を見据えて、あのときの議論していた人たちは、とんでもない負の遺産を残してしまったな、と将来の人たちに言われぬように、そういった長い視野、時間軸で、考えていく必要があると思ひています。

これから世の中が、世界、インバウンドというもの、日本だけの人口動態を見ていると、どうしてもシュリンクしていくということは仕方がないです。これは分かり切っていることです。だけれども、世界を見渡すと人口は100億に向かっているわけです。そういう意味では、もう経済をどんどん盛り上げていくためには、インバウンドというところを視野に入れなければいけないと思ひています。

ですので、そういったところを呼び込むために、世界の港湾イノベーションというキーワードが先ほど出ましたけれども、それをいかに参考にしていくか。また、世界、海外に出ていくと、日本は素晴らしいよねって言われます。昔はプロダクトだったんです。トヨタすごいね、ソニーすごいね、というようなことで、皆メイドインジャパンを大喜びでもって評価してくれた。でも今は、世界に出て行って、日本すごいね、日本語上手だね、どうしたのと言ったときに、皆日本のアニメ、漫画、ゲーム、そういうクリエイションで小さいときから育って、それがまあ日本である、日本に対する憧れである。そういうソフトの部分に取って代わっているなというのが、私が海外に取材するときの印象です。ですので、そういう視点もとても大事である。

後は、先ほど申し上げた、世界の人口が100億に向かっている中で、デジタルネイティブですね。もう生まれた時に、既にもう世の中が全てデジタルである。インターネットの環境が当たり前の、何も説明書を見なくても手が勝手に動くようなデジタルネイティブ世代。こ

れがもう過半数を占めてきて、世界の人口の中のマジョリティになっていくということが分かっている訳ですね。ですので、そういったデジタルネイティブ世代がマジョリティになっていく、そういったインバウンドをいかに、楽しませるかという近未来の価値観に耐えうる、そういう施設にもしていかなければいけないというふうに思っています。ですので、この委員会の中でも、タイミングを見て若い世代の方たちの意見を聞くような、そういうようなタイミングもあると、とてもいいのかな、と感じています。

言いたいことはいっぱいあるんですけど、今日はこんなところにおきまして、徐々にこの委員会の中で、イノベーション、経済の観点から発言をさせていただきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

### 【寺島委員長】

今村さん。

### 【今村委員】

今村でございます。私共は都市開発をグループで行っておりまして、総合的に研究するものとして意見を言いたいと思います。

山下ふ頭の再開発は2030年以降という感じであります。そのころ日本はどんな感じになっているのか、首都圏とくに東京ではどう感じるのか、そういう中で横浜地域はどうすればいいのかという全体的な形の俯瞰的な目線がまず重要であるかなと思っております。

よく言われておりますけども、日本経済の実態は、GDP（世界全体に占める割合）においては、1994年は17.7%、2000年が14%、2022年は4.2%とかなり実は落ち込んでおります。

ご存じのとおり、総人口も2008年がピークで1億2808万人、生産年齢人口は1995年がピークでグーっと下がっています。65歳人口ですけど2030年がそのうち31.2%、2065年が38.4%という形で4割弱でずっと維持する形になっています。2053年頃には1億人を割るんじゃないかという予想もされてます。

実は、そういうところで東京はどうするのだろうという話で、今わかるなかで話をさせていただきますと、今の再開発は、2050年くらいまで大手中小含めたデベロッパーが再開発の予定があります。

また、都内にはですね、オフィスビルが結構ありまして、特に東京オリンピック、1964年あの頃に立ったビルが結構あるんです。バブル期にそのあと結構できています。一万棟くらいあるんですよ。そうするとぼちぼち建て替えの時期にかなりきていて、当然耐震基準になっていないところもありますから、そうすると都心においては建て替えるんだろうなど。地価とやっぱり、市場がまだいいですから。そういうことになってくると、やはり都心、東京六区といいますけれども、徐々にやはり人口は増えるんじゃないかと思っています。

それから、ちょっと遅れると思うんですが、リニアが2027年予定ですから、当然そのころには羽田空港も多分拡張の余地がまだあります。ですから東京においては、今言ったよう



に、人口は激減とかではなく微増じゃないかと思っています。

一方横浜におきましては、経済成長率は大体全国と同じくらいの感じで来ているんです。特にコロナの時は、実質3%程度マイナスということになっておりまして。財政状態も今は何とかなんですけども、2029年とか30年くらいになるとやはり減収が起きてきます。2065年には2022年頃と比較すると570億~710億の減収になっています。

特に法人税(R元年度)、東京においては9,700億円という多額の法人税があるんですよ。横浜市は580億円ということで一桁全く違う。人口も出生率が減少する中、18歳人口も徐々に減っているというのが、これが今の実態であります。

こうした中で、山下ふ頭の再開発をやるということになって、そのときにどういう方向感かというものをまず出して、じゃあ山下ふ頭がこんなことをやるんだよね、ということがあったら、やっぱり、特に東京に繋がるようなベイエリアから、もうちょっと山の方についてはですね、じゃあおれたちはこういうことをやろうという全体的に連鎖的なものを起こす必要があるじゃないかなと思っています。

当然横浜市だけの財政ではかなり困難ですから、民間とか東京とか、いろんな人がそこに投資を促すような、そういうような発信力も必要じゃないかと実は思っています。

それから、日本におきまして、対外直接投資というのは非常に結構低いんですよ。テレビでやっていますけど、かなり低い位置です。これを増加するには、どうしたらいいのかと。当然、企業とか学校とか病院、こういった誘致も、世界中の一流の人材とか企業を受け入れるためにはどうしたら具体的にいいのかと。こういうことをやっていかないと。どうしても人口というのはなかなか簡単にはとまりませんから、そういった必要もあるかなと実は思っています。

それから先ほど羽田空港の拡張ですけども、このエリアは私が見た上でも、日本で一番いい場所というか、最先端のメガリージョン地域であるかなと実は思っています。羽田空港から築地、それから勝鬨とか、当然千葉エリアもあります。また、こちらの方でみなとみらいとか大黒ふ頭とか当然山下ふ頭というものがあり、やはりどういう形になるにしても、リゾートなのか24時間化するのか、いろんなことがあるにしても、非常に可能性を秘めている場所であるのは間違いないです。

こういったことを踏まえて、先ほど委員の方もおっしゃっていましたが、当然我々、皆さん方のお子さんお孫さんにもつながるような、将来的にも永続的になるような再開発、さっき言った経済的な事も当然考える、それから楽しいとか色々な事があると思います。ということ踏まえて、こういった中で議論をして、発信のやり方についてもデリケートな問題があるにしても、やはり他を巻き込むようなスタイルが一番いいのではないかと考えております。

私からは以上であります。

### 【寺島委員長】

はい、ありがとうございました。それでは石渡さんお願いいたします。

## 【石渡委員】

もう皆さんから色々ご意見が出て、重複する部分もありますが、今日私は感想としてまず、先ほど、他の委員からもありましたが、今まで私たちは丘から海を見て、海が見える何とかと言って。丘から、または陸から海をみて、横浜の一面を美化してきましたし、誇りにも感じてきました。今日、洋上からではありませんでしたが、埋立地の一番突先から振り返ってみると、海の面が見えたその先に、横浜の街が見える。で、山手が見える。そして高速が走り、そしてビル街が見えて、で右側の方へ行くと横浜の駅とか東神奈川が見えると。このロケーションはおいしいロケーションだなと。とても美しい絵になるものだなというふうに感じました。

したがって、海から見た景観を、というよりも、逆に自分の位置を、または海外から来る人も含めて、私たちは一度海から見た横浜を考えてみるべきではないかと感じました。これは、先ほど現場の見学をしてから感じたことです。

私が今日申し上げたいことはいくつかありまして、具体的なものでありませんが、横浜の港は開港 164 年目になりますよね。そして私見ではありますけども、私は横浜の歴史というものをやはりよく、まあファクトとして、いろんな数値も必要ですが、まず横浜市民または横浜のこの事を語るに横浜のやっぱり歴史というのを振り返る必要があるだろうと。

そして、横浜は日本初とか発祥の物が色々ありますよね。そしてそれには歴史の問題、技術とか事業であるとか文化とか芸術、まあ遺産も入っていますけども、要は過去から私たちの今の現在と、そして未来というところで、まさに「みなとみらい」という名称に等しく、未来を見据えた、この再開発という部分に視点を置かなければいけない。そこに根底にあるものは横浜の歴史だと思っています。

横浜の歴史を振り返る中で、私は例えば横浜の三名士と言われた高島嘉右衛門さんとか、それから原三溪さん、そして浅野総一郎さんなどが築いてきた横浜のそのものを、ただものを作るのではなくて街を作ってきた。つまり、横浜の港の埋め立てであるとか、ガス灯とかですね。財政立て直しをしたり、それから貿易であり、文化であり、それに基づく色んなものが出来てきて、そして横浜港そのものの構築でイギリス波止場、フランス波止場って、今象の鼻とかありますけれども、こういったまちづくりをずっと過去の先人たちがその時代その時代に合わせて、そして未来を見据えて作ってくれた。この紡いできた歴史みたいなものに、私たちが今これからの横浜の未来を縦糸、横糸にして紡いでいかなければいけないという責任を感じます。

そして、やはり横浜、地元横浜のためというものは必須ですけども、あまりそれに拘っていくと狭あいのですね、利権であったり色んなことが出てくるので、それはそれで事実でしょうけども、現実と少し乖離して、世界に誇れる横浜みたいなものを作るために未来を描き、若い人に私たちが今やろうとしていることが、それこそ 50 年 100 年経った時に、振り返った時に横浜、今の横浜、そのときの横浜があるのは、あのときのおかげと言ってもらえるようなことにしたいと思っています。

そして、やはり横浜の歴史の中で、東神奈川のエリアとか横浜の駅周辺であるとか、それからみなとみらい 2 1、そして関内・関外とありますけど、横浜の、やはりここはインナー

ハーバーと称される最後のエリアとして、ここが総仕上げになるような形で、先ほどもご意見がありました。点在してきたそういったもの、文化とか技術とか歴史を織りなしてきたもの、ここでネットワーク化してみんなが、すべてがつながる形で集大成的なものがこの山下ふ頭に、再開発をすることによって、完成されるというふうに来たらいいなと思っています。

そして、やっぱり美しい街でなければいけないし、先ほど防災の話もありましたが、強くなければいけないと思います。水深は10m~15m程とお話を伺いました。でも海面から地面の表面は1~2m程ですよ。これでたまたま液状化がなくて、今の現状を守ってますが、一方、ちょっと目を離れた大黒ふ頭は、数10cm、下手すると1m位な液状化で沈みました。たまたまかもかもしれません。ですから、本当に頑丈な土地なのかということも含めなければいけないし、つまり、美しくなければいけないし、強くなければいけない。そして生き残れるというのは、いわゆる持続、そこにできたものとかそこにある機能は生き残りながら、未来に向けて持続性とか永続性がでる、そういったものを作らなければいけないのであろうと思っています。

やはり、私も経済人でもありますし、大学関係やっておりますけれども、まずは市民の声を聴くというのは、もう基本中の基本で、ただし、市民のためのというところに最重要点を置くと小さなものになりますので、もっと大きなものにしなければいけない。しかしながら今までのものやことではなくて新しい始まりの拠点、または今まで出来たものを集大成する一つの終着点。終着点は始発点でもありますので、そういったものにしてきたいと思っています。

やはり、横浜の誇りとか、歴史、そして足元では景観とか集客の問題、それから事業採算の問題、就労の問題、税収の問題など、色々あると思います。それら相反するものをどこで折り合いをつけるかということの議論になっていくのかと思いますが、私は先進的なものを取り込み、そして、いにしえとは言いませんけども、古き良き、匠の技みたいな、または伝統みたいなものも、あいまった所の拠点にしていけたらいいのかなと思っています。

いずれにしても委員長から先ほどお話があったとおり、あまり固定概念に拘らずやっていかなければいけないと思っていますので、今後の皆さんとの意見交換をしていきたいと思っています。

もう一つは、これらを描くと莫大な金がかかると思います。そのお金の、いわゆるイニシャルコストみたいなものを、それからそれを続けていく、民営でやっていくとすると、どの企業がどういった中で収支をつけながら、雇用を守りながら経済効果を出していくのかという、そういった面での持続性ということを考えると非常に、それを現場でやるところの行政の方々は、頭痛いと思いますよ。絵面だけでは済まない現実がありますので。この辺をやはり丁々発止やらなければいけないと思いますけども。いずれにしても民間でやっていかなければいけないということですから。そこをコンセプトに置くとすると、かなり綺麗事だけは済まない。

ただし、先ほどもあったようにIR=(イコール)カジノではありませんのでね。これはもう市民がそれを結論付けたわけですから。本当に色々な相反する意見を合意形成していき

ながら、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統とかいろんな守らなければいけないものを混在させながら、新しい、世界に誇れる横浜のまちづくりになっていけばいいかなと思います。

以上です。

### 【寺島委員長】

ありがとうございました。僕の方から若干、皆さんに意見を伺っていて、入り口のところで、こういうことなんだろうと受け止めたのが、まず、そのファンダメンタルズとして港湾競争力という言葉が登場してきましたが、やはり経済とか産業とか物流だとか、その港湾の競争力ということについて、僕が港湾局の方からのファクトシートでもってしっかり確認したいと言おうとしたことに繋がるんですけども。

私が色々調べてきていて、私自身が三井物産という総合商社の新入社員として入社した1970年代、横浜、神戸というのはいわゆるコンテナ取扱量で世界一、世界二を競っていたんです。しかし、直近の状況では、一番直近の数字は確認したいと思いますが、横浜は73位まで落ちてきています。今、アジアダイナミズムの力学の中で、日本列島全体の物流軸が太平洋側から日本海側の港湾へと移ってきているというのが大きな流れなわけですけども。そういう状況下で、港湾競争力というものをどうしていくのか。

一方で、横浜がすごいなと思うところは、荷役の効率ということにおいては、世界でもトップクラスの効率を誇っているんですね。システムとして。

そういう状況を前提として、ファンダメンタルズの議論です。つまり経済・産業・物流の視点から、横浜港という港湾をどうしていくんだということに対する知見が必要だと、まずベースですね。

もう一点ですけども、これはより長期的な未来圏をにらんだ議論をしようよ、ということが多くの人たちの方向感かなと。明治維新から戦争に負けるまでが77年と。戦争に負けてから去年までが77年と。たぶん我々が、僕盛んに今こういう発言してるんですけども、責任をもって議論しなければいけないのは、2023年、今年を劈頭とする77年、77足すと2100年ですから、翌年から22世紀というやつなんですけど。

この77年に対する大きな視界と構想力が我々に試されているんだろうと思います。そういう長期的な未来圏を睨んで、夢があって、わくわく感のあるような、世界に誇れるような、ようするに構想・プロジェクトみたいなものが、どういうふうに見えてくるんだろうかと。もう1つが、広域連動という言葉が出てきましたけど、横浜が独立して頑張ってるという部分もちろんあるけれど、やはり東京湾全体を睨んでとか、日本全体を睨んだ広域の中で、どうしていくんだいというポイントが必要になってくると。

もう1つは参画という言葉がやはり非常に重要だと思ってまして、市民参画ですね。ようするに、市民が、その参画というのは、僕は意見を述べるだけじゃないだろうと思います。参画して、山下ふ頭を支えていくというのかな。山下ふ頭のプロジェクトに市民が参画するということは、意見を言うだけの話では済まない。そのメンテナンスと方向付けの中に、市民がどういう責任を担いながら参画していくのかという視点を、どう加えるのか。

私は今、医療防災産業の創生協議会の会長というのをやって、国会議員連盟 80 人近くの人たちがバックアップしてくれて、超党派のですね。例えば医療防災なんていうのが、3. 11、そしてコロナの教訓ということで、日本人なら誰もが震え上がったですね、どうしていきんだいってという防災っていうところに、やはりこのプロジェクトの可能性に埋め込まなきゃいけない言葉があるんだろうと、僕は、直感的に思っています。

それからもう 1 つは、ものすごいダイナミズムで引きつける力です、外から。要するにインバウンドも含めて、人だけじゃなくて投資も含めて、横浜がすごいこと始めたなと思うような、外からの引きつける関心、それから人流、投資、あらゆる面で引きつける力がどこまで持っていけるのか、そういう中で議論を深めていかなきゃいけないと思います。

冒頭申し上げたように、この会は決定機関ではないんです。決定機関は責任あるラインをもって決定していただきたいわけです。それに対して、真っ当な選択肢と、付加価値をつけて意見を出しておくということが、この会の役割であり、まとめるところでの責任だと思っていますので。その方向感で進みたいってということで、今日の皆さんの意見を、集約しておきます。

次の議事として、地域団体の参画についての話を事務局の方からしていただきたいと思います。

## 【事務局】

はい。それでは地域関係団体の参加について、スクリーンに提示しました資料でご説明をさせていただきます。

今回の検討委員会は、事業予定者を審査・決定するものではなく、傍聴に加えて、インターネット配信、視聴した皆様からご意見をいただくなど、透明性の高い運営を行います。

また、今後の事業予定者の選定において、委員会に参加した委員が属する事業者等に有利・不利に働くことはありません。

検討委員会では、学識者の皆様方の専門的なご意見に加え、都心臨海部の一体的なまちづくりに向けて、周辺地区との連携、再開発の経済効果を周辺へ波及、地域で事業を行っている方々の思いなど、地域の皆様からのご意見を伺うことが必要です。

そうしたことを踏まえ、各地域関係団体へ委員の推薦を依頼したいと考えております。

地域関係団体の案としては、まちの活性化等を推進している団体から、地元のまちづくりを行っている団体の代表として「関内・関外地区活性化協議会」、横浜港の振興策を担っている団体の代表として「一般社団法人横浜港振興協会」。地域の経済活動を担っている団体から、商工業の振興等のために活動している経済団体の代表として「横浜商工会議所」、地元の商店街の代表として「協同組合元町エスエス会」。埠頭で事業を営む方々の団体から、港湾運送事業の団体の代表として「横浜港運協会」、物流の拠点である倉庫業を営む団体の代表として「神奈川倉庫協会」。以上 6 つの地域関係団体からそれぞれ 1 名をご推薦いただき、今後の検討委員会にご参加いただきたいと考えております。

委員会の目的である、まちづくりの方向性、導入機能等の検討に向け、様々なまちづくりや開発等の委員会等にご参加され、議論されてきた皆様方に地域関係団体の参加について、

ご意見を伺い、本市が任命する際の参考とさせていただきたいと考えております。

説明は以上となります。どうぞ、よろしくお願い致します。

### 【寺島委員長】

ただいまの説明に関して委員の皆様からのご意見があれば、ご発言させていただきたいと思いません。

### 【北山委員】

僕は、巨大再開発とかをやるときに連絡協議会とかそういう会議が開かれて、利権を持っている利益団体が参加して入ってくるということになると、大きい将来の夢とか、さらに100年とか次世代のことまで考えた新しい都市のイメージを作ろうとするときに、利益調整組織のようになってしまおうとですね、本来の目的と違ってくるんじゃないかなと思うので、それは僕の勘違いかもしれませんが、できればこの委員会とは自立していた方がいいんじゃないかなと思います。

先ほどももっと大きいエリアで考えた方が良くという話もありましたけども、その小さい、特に山下ふ頭と関係するようなその空間の中だけの話ではなくて、もっとさらに大きい空間の中で話をしようと思うと、特定の団体、これは決まっているわけなんですか、まだ決まってない案なんですか。

### 【事務局】

一応、今、我々としての案ということでございまして、今日のご議論なども踏まえましてですね、決定してきたいというふうに考えております。

### 【涌井委員】

地域関係団体っていうのは行政上の立場から言えばですね、こういった方々が入ってくれることは非常に結構なことだと思いますが、我々自身が今スタディをしている最中であり、ある種の方向性みたいなものがなんとなく見えてきた段階で、地域の意見としてどうなんだと、地区の意見としてどうなんだと、こういう問いかけをしていくのであればですね、合理性があると思うんですけども、例えばこの次の、次回からこういう方々に参加していただく必然性とか必要性というのがですね、本当にあるのかなというのを考えてみますと、いつの段階から参加していただくのかっていう論点は非常に大事だと思いますが、いかがでしょうか。

### 【事務局】

我々の方もですね、今日案としてこういう形で出させていただいて、今みたいなご意見をいただきましたので、我々としては次回から入っていただきたいと思っておりますけども、その辺含めて検討させていただきたいというふうに思います。

### 【寺島委員長】

これは僕が委員長として決めつける気持ちは一切ないですけども、いろんな各種委員会や審議会出てきてですね、まったく意見を聞かないというのもまた、おかしな話だと思うんですね。そこで、例えば総合エネルギー調査会だったらですね、例えばエネルギー研究機関とか、経済団体とかにですね、ご意見があればまとまった形でもって意見を聞きますよということで意見書をね、ぴちっと準備してもらってですね、それである段階でまとまった形でもって、仮に10分ずつとかですね、この方向付けについてきちっと意見を言うてもらってという機会を設けるっていうのもですね、一つの案かもしれないと思いますね。

一切、地域のもですね、実際問題として責任もって地域に関わっている方たちの意見を聞かないというのも変です。そういう意味合いにおいて、我々は付加価値をつける役割なんですね、行政の方でもって、今日の意見を踏まえてですね、調整していただければ、だいたい見えてくるんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょう。

### 【事務局】

私どもとしてはやはり、山下ふ頭の開発には地元の方の声、これはやっぱり大事だと思いますので、そのやり方についてはですね、今委員長からも発言ありましたけども、やり方はすいません、考えさえていただきながら進めていければというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

### 【寺島委員長】

じゃあ、今日のところはそういうことでもって、ご意見を伺ったということで。それではですね、事務局からの連絡事項等あればお願いいたします。

### 【事務局】

はい。それでは、先程、議事の2の意見交換会におきまして、委員長から提案のあった学識者委員からのプレゼンを次回以降に行っていきたいというふうに思っております。次回、プレゼンいただく委員の方々につきましては、後日、個別に調整をさせていただきます。また、本日、インターネットにより視聴されている方々からご意見をいただいております。いただいたご意見につきましては、次回までに取りまとめ、委員会の冒頭でご報告させていただきます。では、以上でございます。

### 【寺島委員長】

それではですね、その他、何かご意見が、委員の方で、言っておきたいというのがあればですね、お聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、今日の議事はですね、こういう形でもって締めくくっておきたいと思いますので、事務局の方に進行をお渡ししたいと思います。

### 【事務局】

はい。寺島委員長、どうもありがとうございました。

学識者委員の皆様においては、お忙しい中、長時間にわたり熱心にご意見交換いただきまして、どうもありがとうございました。

次回の日程等についてはですね、後日お知らせしたいと思います。

以上をもちまして、横浜市、山下ふ頭再開検討委員会学識者会合を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

**【各委員】**

ありがとうございました。